



## 【山脇成人先生のご逝去を悼んで】 尾崎 紀夫（産学連携諮問委員会委員長）

去る 2026 年 6 月 8 日、広島大学名誉教授であられた山脇 成人先生が、享年 72 歳にてご逝去されました。先生は日本脳科学関連学会連合の代表（2018 年 7 月～2020 年 6 月）、代表補佐（2020 年 7 月～2025 年 3 月）を歴任され、2022 年より産学連携諮問委員として、ご逝去の直前まで本連合にご貢献いただいております。ここに謹んで先生のご生前のご功績を偲び、心より哀悼の意を表します。

山脇先生は、精神医学・気分障害・脳科学の分野において国際的に高いご評価を得られる研究者であられると同時に、日本脳科学関連学会連合の代表として、性質の異なる多くの学会を束ね、脳科学の研究成果を社会に発信し、学術政策への提言活動を先導してこられました。その卓越した調整力と将来を見据えた構想力なくして、本連合のこれまでの歩みを語ることはできません。

私自身、先生とご一緒させていただく貴重な機会を通じて、そのお人柄と学問への真摯な姿勢に幾度となく触れてまいりました。未曾有のパンデミックに見舞われた 2020 年 6 月には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴うメンタルヘルス危機に対し、脳科学の知見に基づく対策の必要性を社会に訴える提言「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係るメンタルヘルス危機とその脳科学に基づく対策の必要性」を、先生とともに取りまとめ発信いたしました。社会全体が先行きの見えない不安に直面する中、脳科学・精神医学の専門家集団として果たすべき社会的責任を重んじ、迅速かつ的確なメッセージの発信を主導された先生の強い使命感に、深く感銘を受けました。

また 2019 年 9 月には、精神・神経疾患研究の基盤整備に向けた「精神・神経ゲノム情報管理センター提案書」の策定にあたり、先生の主導のもとで議論を重ねた日々を、今も鮮明に覚えております。さらに遡り 2017 年 7 月には、日本学術会議・臨床医学委員会・脳とこころ分科会において、精神・神経疾患の治療法開発を産学官連携によりいかに推進すべきかを議論し、「精神・神経疾患の治療法開発のための産学官連携のあり方に関する提言」の取りまとめにご一緒させていただいたことも、忘れがたい思い出でございます。本学術会議提言は本連合の産学連携諮問委員会発足につながったものでした。

これらの提言活動はいずれも、脳科学の成果を臨床の現場や社会実装へとつなげようとする先生の一貫した信念の表れであり、その先見性と情熱に、私たちは幾度となく導かれてまいりました。

先生が本連合の代表として遺された道筋は、これからも会員一同が引き継ぎ、脳科学の発展と社会への貢献に努めてまいります。

ここに謹んで先生のご生前のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 【脳科連連携法人一般会員のご挨拶文】 野口 明良（塩野義製薬株式会社）

関連学会の皆さまには平素より大変お世話になりありがとうございます。塩野義製薬株式会社の野口 明良と申します。私は 1992 年塩野義製薬に大学担当 MR として入社し、その後循環器領域マーケティング部を経て 2014 年よりメディカルアフェアーズ部門、2024 年より現在の産官学連携部で活動しています。産官学連携部とは社外医学専門家とのコミュニケーションを行う MSL 業務の他、学会や研究機関、規制当局や自治体などと連携して非営業を目的とした企業活動を行う部門です。私はその中でニューロサイエンス領域を担当しており、当連合の会員学会様には日頃より一方ならぬご指導をいただいております。

弊社事業は長年にわたり、感染症を軸とした創薬活動を行って参りましたが、近年より、うつ病や ADHD、不眠症を中心とする睡眠障害および神経変性が主な要因となる希少疾患などの QOL 改善に向けて、治療薬の開発はもちろん、プログラム医療機器（SaMD: Software as a Medical Device）など、薬物以外の治療手段の開発にもチャレンジするなど、総合ヘルスケア企業を目指して活動の幅を広げています。不慣れな領域、新たな治療手段など、まだまだ手探りの状況ではありますが、引き続きご指導いただければ幸甚に存じます。

上述の通り、弊社では新規機序のうつ病治療薬や ADHD の治療補助アプリ（SaMD）、アンメットニーズが非常に高い希少疾患、AI 技術を導入した精神疾患の診断・治療の補助など前例の少ない取り組みに多く着手しており、脳科連の先生方には今後一層のご助言やご指導をお願いする機会が増えると想定しています。またこれら弊社の取り組みは脳科連の設立目的にある「我が国の脳科学の基礎・臨床研究者を代表し、脳科学の発展ならびに普及を通して社会に貢献する」にも沿うものと考えており、今後一層のご指導および脳科連の益々のご発展を願っております。

## 【第 34 回リレーエッセイ】 日本神経内分泌学会理事長 大塚 文男

この度、日本神経内分泌学会理事長に就任致しました岡山大学学術研究院医歯薬学域・総合内科学の大塚 文男と申します。日本心理学会理事長の唐沢 かおり先生より、バトンをいただきました。本リレーエッセイは 2 周目に入り、本稿は 2 周目の第 1 回となります。1 周目の第 1 回を担当された当時の本学会理事長の上田 陽一先生がご解説されていますが、今回の執筆を機に改めて本学会の歴史を振り返らせていただきます。

本学会は昭和 42 年(1967 年)に始まった学術集会を起点に、平成 7 年(1995 年)に現在の学会として名称変更し、半世紀を超える歴史を有しております。1999 年から歴代理事長のリーダーシップのもと、学術の進展と人材育成に努めてまいりました。川上賞、若手研究奨励賞、臨床神経内分泌優秀賞などの顕彰制度や若手研究助成、そして中堅・若手研究者「NGENES」の活躍によって、幅広い世代の研究活動を支援している点が本学会の特徴です。本学会は 2001 年より国際神経内分泌連盟(INF)に加盟し、2026 年 7 月 26-29 日には名古屋大学・有馬 寛大会長のもと、第 52 回学術集会と第 11 回国際神経内分泌学会(ICN)が名古屋市においてジョイント開催される好機を迎え、本学会の活動がグローバルに躍進する貴重な機会となりました。

( <https://www.congre.co.jp/icn2026/index.html> )。

神経内分泌学は、基礎医学から臨床医学に至るまで広範な領域を包含しています。視床下部や下垂体を中心とする神経内分泌系は全身の恒常性維持に深く関与し、基礎と臨床の接点が豊富な分野です。学術集会においては、基礎と臨床の融合を重視し、相互理解を深める場が創出されていることが大きな特色です。本分野には、知覚や行動、生殖、性差、代謝調節など多岐にわたる生命現象も含まれ、その裾野の広さと学術的な奥行きが特徴です。

本学会は今後、広範な領域に渡る各分野の深化と融合、学術の進展と人材育成を図り、得られた成果の社会への還元を目指してまいります。日本脳科学関連学会連合のさらなる発展に少しでも貢献できればと考えております。

今後とも、日本神経内分泌学会をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

次のリレーエッセイは日本睡眠学会理事長 内村 直尚先生にバトンタッチされます。

## 【TOBIRA 第 14 回研究交流フォーラム開催報告】 産学連携諮問委員会副委員長 池田 和隆

前号のメルマガでご案内いたしましたように、日本脳科学関連学会連合(脳科連)が後援した「TOBIRA 第 14 回研究交流フォーラム」が、2026 年 7 月 17 日に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにおいて開催されました。本フォーラムは「脳の“状態”を指標化する—次世代医療に向けた脳科学と産学連携—」をメインテーマとして開催され、産学官の研究者・企業関係者・行政関係者など 150 名を超える参加者が一堂に会し、脳科学研究の社会実装について活発な議論が行われました。

フォーラム最初の招待講演では、脳科連代表であり慶應義塾大学再生医療リサーチセンター長の岡野 栄之先生に、「幹細胞を用いた中枢神経系の再生医療と創薬研究について」と題してご講演いただきました。岡野先生のご講演を楽しみに、朝一番から多くの参加者が来場しました。ご講演では、iPS 細胞や神経幹細胞を用いた再生医療研究が脳神経領域においても大きく進展していること、岡野先生の研究グループが世界をリードしてその実用化を進めていることが紹介されました。また、安全性評価、倫理的課題、規制対応など数多くの課題を一つひとつ克服しながら、脊髄損傷や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などを対象とした再生医療が社会実装の段階に入りつつあることが示され、参加者に大きな希望と感銘を与える講演となりました。

続く特別講演Ⅰは、脳科連産学連携諮問委員会との共催企画として開催され、ワーキンググループ 4(WG4)の各タスクフォース(TF)の活動成果が紹介されました。TFⅠの住吉 太幹先生からは、精神科領域における Decentralized Clinical Trial(DCT)の推進について、製薬企業、開発業務受託機関(CRO)、アカデミアが連携して日本医療研究開発機構(AMED)研究費を獲得し、国立精神・神経医療研究センター(NCNP)が先導して実装に向けた研究開発が進められていることが報告されました。

TF3 では、脳科連連携法人会員である大塚製薬株式会社の菊地 哲朗先生より、世界的な成功を収めた D<sub>2</sub>受容体部分作動薬であるアリピプラザールおよびブレクスピプラザールの開発経緯をご紹介いただくとともに、認知症における行動・心理症状(BPSD)への適応拡大や、ドラッグリポジショニングの考え方についても最新の知見をご講演いただきました。

TF2 では、広島大学の武見 充晃先生より、ブレインテックを取り巻く世界的な動向、日本の研究開発の貢献、倫理・安全性を考慮したルール整備の重要性についてご紹介いただきました。また、経済産業省をはじめとする関係省庁の理解のもと、TF2 メンバーが中心となって NEDO 事業が立ち上がり、日本におけるブレインテックの社会実装が本格的に進みつつあることが紹介され、参加者に強い印象を与えました。

特別講演Ⅲでは、脳科連連携法人会員である株式会社ツムラより岡田 典弘先生のご講演があり、イントロンリテンションを利用した新しいバイオマーカー研究について最新の成果が紹介されました。精神疾患、とりわけ未病段階における診断・層別化マーカーとしての可能性が示され、産学連携から生まれる新たな研究領域として大きな注目を集めました。

アカデミアによる基調講演では、東京都医学総合研究所の原田 高幸先生から、脳科連運営委員でもある柚崎 通介先生との共同研究によるシナプス強化を介した神経軸索再生研究についてご紹介いただきました。また、早稲田大学の井上 貴文先生からは、科学技術振興機構（JST）「研究開発の俯瞰報告書」の脳神経分野もご担当されている立場から、げっ歯類を対象とした最先端の脳イメージング技術と脳機能操作技術について講演いただき、今後の脳科学研究基盤を支える重要な技術開発をご紹介いただきました。

会場では脳科連のブース展示も行われ、脳科連事務局の黒住 圭子様にご対応いただきました。多くの参加者がブースを訪れ、脳科連の活動を紹介する貴重な機会となりました。さらに、本フォーラムでは過去最多となる 41 題のポスター発表が行われ、若手研究者を中心とした活発な討論が展開されました。優秀発表 3 課題と最優秀発表 1 課題が TOBIRA 理事長の鳥羽 研二先生より表彰され、会場は大いに盛り上がりしました。

今回のフォーラムは、TOBIRA が有する産学官連携コンソーシアムとしての実践力と、脳科連産学連携諮問委員会が推進してきた産学連携ネットワークや政策提言活動が融合した、象徴的なフォーラムとなりました。TOBIRA 関係者からも脳科連の活動に対して高い評価と関心をいただき、今後の連携拡大への期待が寄せられました。

産学連携諮問委員会では、今後も脳科学研究の社会実装を加速するため、ワーキンググループ・タスクフォース活動をさらに発展させるとともに、脳科連連携法人会員や関係機関との協力を深めてまいります。引き続き、産学連携諮問委員会の活動にご理解、ご支援、ご参画を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 【2026 G-SCIENCE 共同声明を受けた日本脳科学関連学会連合の声明について】

2026 年 G-Science 共同声明の発表に合わせて脳科連声明文をホームページに掲載いたしましたのでご報告申し上げます。○提言・レポートページ <https://www.brainscience-union.jp/teigen>

## 【2026 年度代表選挙日程のご案内】

8月3日 代表からの選出公示

8月3日～19日 代表候補者推薦受付（所定の書式を電子書面で事務局に送付）

詳細は 8 月 3 日に配信されます選挙公示でご確認ください。

## 【日本学術会議主催学術フォーラムのご案内】

「脳の健康（ブレインヘルス）と社会的レジリエンス

ー S7 2026 を契機とした精神・神経疾患の統合的理解、AI・オミックス解析、精密医療への展開 ー」

開催日時：令和 8 年 10 月 18 日（日）13:00～16:00

開催場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

主催／共催：日本学術会議、日本脳科学関連学会連合 ※申し込み方法については決定しだいお知らせいたします。

## 【「科学的夢分析」2027 年度公募研究説明会】

学術変革領域研究（A）「科学的夢分析」では、2027 年度公募研究のオンライン説明会を開催します。

本領域では、夢の生成機構と生理的意義の解明を目指し、神経科学、睡眠科学、認知科学、心理学、情報科学、臨床医学など、幅広い分野からの研究提案を募集します。皆さまふるってご参加ください。

日時：2026 年 8 月 7 日（金）14:00～16:00 オンライン開催

英語セッション 14:00～15:00 日本語セッション 15:00～16:00

参加登録等詳細はこちらから：<https://dreamscience.jp/>

## 【活動報告（6 月～7 月）】

- ・一般社団法人 応用脳科学コンソーシアム年次総会記念フォーラム 6 月 3 日（後援）
- ・TOBIRA 第 14 回研究交流フォーラム 7 月 17 日（共催）
- ・第 47 回運営委員会（メール審議 7 月 8 日～7 月 22 日）

## 【事務局だより（主に会員学会事務局向け）】

- ・評議員の変更がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。
- ・メールマガジン内容へのご意見やお問い合わせは、貴学会の事務局経由でお願いします。